

基本調査

第 I 部 調査の概要

1 調査の目的

生活の各分野における県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

2 調査内容

- (1) くらし全般について（生活総合満足度、くらし向きの変化、今後のくらし向きの見通し、地域の住みよさ、定住意向）
- (2) 生活意識
- (3) くらしの満足度（身近な生活に関する 38 項目についての重要度及び満足度）
- (4) 県行政への要望

3 調査設計

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満 18 歳以上の男女
- (3) 標本数 4,000 標本
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法
ア 郵送による調査票の配布
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (6) 調査期間 令和 7 年 7 月 18 日（金）～ 8 月 12 日（火）
- (7) 調査委託機関 株式会社 CCNグループ

4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標 本 数	4,000 標本
有効回収数	1,627 標本 〔 郵送回答 : 963 件 〕 〔 インターネット回答 : 664 件 〕
有効回収率	40.7%

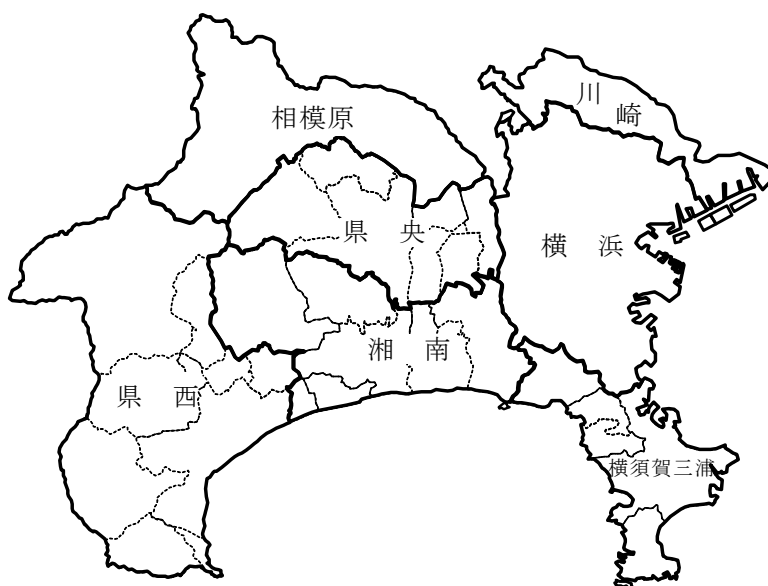
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,620	617	38.1%
川崎	川崎市	660	237	35.9%
相模原	相模原市	300	107	35.7%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	300	144	48.0%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	380	150	39.5%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	580	235	40.5%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	160	73	45.6%
無 回 答			64	
全 体		4,000	1,627	40.7%

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（令和6年1月1日現在の推計値）により、4,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,156,795人 81地点 1,620標本	-	-	3,156,795人 81地点 1,620標本
川 崎	1,283,024人 33地点 660標本	-	-	1,283,024人 33地点 660標本
相模原	607,446人 15地点 300標本	-	-	607,446人 15地点 300標本
横須賀三浦	-	557,093人 14地点 280標本	25,917人 1地点 20標本	583,010人 15地点 300標本
県 央	-	689,893人 18地点 360標本	36,552人 1地点 20標本	726,445人 19地点 380標本
湘 南	-	1,017,415人 26地点 520標本	91,084人 3地点 60標本	1,108,499人 29地点 580標本
県 西	-	193,400人 5地点 100標本	90,880人 3地点 60標本	284,280人 8地点 160標本
人口計	5,047,265人	2,457,801人	244,433人	7,749,499人
地点数計	129地点	63地点	8地点	200地点
標本数計	2,580標本	1,260標本	160標本	4,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（令和6年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したもの。

6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している。）また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているので、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。
- (7) 今後の精査により、数値等は変動することがある。

7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上の式により、回答者数（n）、および回答比率（P）ごとに信頼度 95%のときの標本誤差(%)を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率（P） 回答者数（n）	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,627	± 2.10	± 2.80	± 3.21	± 3.44	± 3.51
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。

注）この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数（n）が 1,627 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.44 以内（真の値は、56.56%～63.44%）である」とみることができる。

8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1, 627) (%)

横浜	37.9
川崎	14.6
相模原	6.6
横須賀三浦	8.9
県央	9.2
湘南	14.4
県西	4.5

(無回答 3.9)

(2) 性別 (n=1, 627) (%)

男性	44.7
女性	49.7

(無回答 5.6)

(3) 年齢 (n=1, 627) (%)

18～19歳	0.2
20～29歳	4.9
30～39歳	11.1
40～49歳	18.4
50～59歳	22.9
60～69歳	17.9
70～74歳	7.5
75歳以上	12.8

(無回答 4.2)

(4) 65歳以上の同居者の有無

(n=1, 627) (%)

いる	41.8
いない	51.9

(無回答 6.3)

(5) 子どもの状況(複数回答) (n=1, 627) (%)

小学校入学前	7.1
小学校在学中	10.9
中学校在学中	7.6
高校在学中	7.0
短大、専門学校等在学中	1.0
大学、大学院等在学中	6.9
学校教育終了[未婚]	21.8
学校教育終了[既婚]	22.4
その他	3.1
子どもはいない	30.0

(無回答 4.9)

(6) インターネットの利用状況

(n=1, 627) (%)

よく利用する	69.0
ときどき利用する	14.0
あまり利用しない	5.5
利用しない	7.3

(無回答 4.2)

(7) 職業区分

(n=1, 627) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	4.9
	家族従業者	1.3
勤め・内職	勤め(フルタイム)	41.7
	勤め(パートタイム)	15.4
	内職	0.1
主婦・主夫(勤めていない)		12.5
学生		1.0
無職		14.5
その他		1.8

(無回答 6.7)

(7-1) 有職者の職業内容

(n=1, 032) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.3
	商工サービス業	4.5
	自由業	4.7
勤め・内職	経営・管理職	7.9
	専門・技術職	21.9
	事務職	24.6
	教育職	5.3
	技能・労務職	10.6
	販売・サービス職	18.1

(無回答 2.1)

